

希望に向かって…

医療法人医誠会 介護老人保健施設
エスペラル近江八幡
 〒523-0071 滋賀県近江八幡市大房町 1002 番地 1
 TEL : 0748-32-1165 FAX : 0748-32-1190

らく はた楽トーク vol.13



介護福祉士
 つじ こうすけ
 辻 幸資より

エスペラル近江八幡で、介護福祉士として3階フロアで働いています。実は学生時代は農業について勉強し、果樹を専攻してブドウなどを作っていました。アメリカに農業留学にいったときは、勉強しながら現地で働いて、授業料を払うのも大変でしたね。高齢者の方と一緒に農作業をやってみるのも面白いだろうなと思って、卒業後は介護職の道を選びました。エスペラル近江八幡ではご利用者と一緒に、プランター菜園のお手入れをしたりもしています。今は簡単な作業ですが、いずれは色々な農作物と一緒に作ってあげたいと思っています。

ご利用者との関わりの中で、例えばトイレの介助の際に「ありがとうございます」と声をかけてくれます。この一言が嬉しくて頑張っています。入所されている方は季節をなかなか感じてもらえないだろうし、クリスマスにはサンタクロース、節分には鬼の格好をして施設内を回りました。春にはお花見もできれば、楽しんでもらえるかなと考えています。当施設では現在、男性介護職員が15人程います。まだまだ女性の多い職場です。ご利用者だけでなく、男性職員にも楽しんでもらえるようにと、新しい男性スタッフが入ればご飯を食べに誘ったり、バスケットボールやバドミントンをするスポーツ会を開いたり…。今度はエスペラル野球部を設立する予定です。野球未経験ばかりのスタッフが集まって一からのスタートですが、みんなが楽しい時間を過ごせるチームにしたいと考えています。



月に1度、スタッフが体育館に集まって汗を流しています。

スタッフ募集中! 詳しくは採用担当者までお気軽にお問い合わせください

糖尿病教室

糖尿病の症状や正しい食生活について、当院の内科医師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師・臨床検査技師・看護師等による講演です。

毎月第3木曜日の11時から(1時間程度)

場所: 当院 新会議室(2階)

3/16 看護師「足のお手入れ(糖尿病で足を切らないために)」
 管理栄養士「これであなたも糖尿病食マスター!」

参加費無料の全6回シリーズです。途中の回からでもお気軽にご参加ください。

診療科目 内科・外科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・人工透析内科・人工透析室(38床)・リハビリテーション科・泌尿器科(休診中)

診察日 月～金 午前診察・午後診察 / 水・木は午後休診
 土 午前診察 ※日曜日・祝日は休診

診療時間 午前診察 9:00～12:00(受付:11:30まで) / 午後診察 13:30～16:00

地域医療連携室 TEL: 0748-48-5558 FAX: 0748-48-5722
 広報責任者 山本 寛人



はなてんびん

Pick up photo



第6回QM活動発表会

2月25日(土)、各部署が1年間の業務改善の成果を発表するQM活動発表会を院内で開催しました。今年度は診療放射線科の「撮影条件の最適化」が最優秀賞を受賞しました。



contents

神崎最前線: QM 活動を通して
 特集: 防災の意識をもう一度
 エスペラル近江八幡だより 希望に向かって… / 糖尿病教室

QM 活動を通して

事務長 うらの としひこ
浦野 俊彦



QMとはQuality(クオリティ)とManagement(マネジメント)の両頭文字をとったもので、QM活動は「医療の質やサービス(Quality)」を「向上していく(Management)」活動を意味します。「患者本位の医療の質」と「質の効率」の確保・改善と、不断に向上させていくシステムを構築し、「質の向上」、「業務の標準化」を目標にPDCAサイクルを繰り返しながら継続的に業務改善を行います。

医療法人医誠会 神崎中央病院では、平成23年度からこの活動を取り入れ、病院をあげて部署や職種を越えた業務改善に取り組むことで、縦横の連携をさらに深め、職員全員が一丸となった病院づくりを行っています。

つまり、病院職員の知恵を総動員し、各部署(職場)が抱える問題を解決する活動を通じて、職場のチームワークの向上や患者さんとのコミュニケーションの向上、明るく活気に満ちた病院(職場)をつくることを目的としています。

今年度は「東近江医療圏域において、地域、職員、双方に必要とされる維持期、回復期病院として存続するため、急性期病院との連携を密にするとともに、より早期の患者受け入れを目指し、各職員のスキルアップを図る」を基本目標に各部署が業務改善に取り組み、平成29年2月25日(土)には、1年間の活動成果を発表する第6回QM活動発表会を院内で開催しました。

看護部より9チーム、診療部より6チーム、事務部等より4チームで、合計19のチームがいずれも熱のこもったプレゼンテーションを披露しました。その活動内容の一例として、感染予防・不審者防止を目的に「面会届」を活用し、未収金回収の実例を挙げ、来賓者から好評価を得ました。



テーマ選びや職種間のコラボレーションなど10項目で採点し、優秀な3チームを表彰しました。どのチームも甲乙つけがたいものでしたが、診療放射線科の皆さんが最優秀賞を受賞しました。

神崎中央病院ではこれからもQM活動をはじめとする種々の活動を通じて、医療の質やサービスの向上はもちろん、働き甲斐のある職場を築き上げていきます。

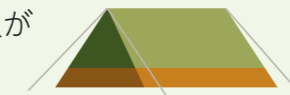
特集 防災の意識をもう一度



東日本大震災の発生から6年目を迎え、防災対策をもう一度見直してみませんか。今回の特集は2016年9月の「栄養だより」の【防災(備えあれば憂いなし)】を改めてご紹介いたします。

まずは避難生活を想像してみましょう (東日本大震災の実態)

東日本大震災では多くの地域でライフラインが止まりました。おおかたの地域で復旧が完了するまで電気は1週間、水道は3週間、ガスは5週間かかったといわれています。また震災後1週間経っても救援物資がまともに来ず、食料不足に陥った地域がありました。やっと届いた救援物資も種類が少なかったため偏った食生活が続き、栄養バランスが乱れて体調不良になる人が続出しました。



“備えあれば憂いなし”過去の反省を ふまえて備蓄を見直してみましょう

かつて備蓄は3日分用意しておくようにといわれていましたが、来たる南海トラフ地震に備えるためには「1週間分」必要とされています。東日本大震災の食料不足の話からも決して大袈裟な量とはいえません。では具体的にどんなものを揃えればよいのでしょうか?想定されるケースごとに考えてみましょう。



① もしも電気、水道、ガスのライフラインが止まったら?

災害当日用に水・加熱なしで封を開けて食べられる缶詰・レトルト食品・菓子類などは備蓄として必須です。またカセットコンロを各家庭で用意しておくといよいでしょう。過酷な避難生活中に温かい食事をとることができれば心がホッと落ち着きますよ。



② もしも水が不足したら?

それでも水分摂取は十分にできるようにしましょう! 水が不足しているからといって水分摂取を控えていると脱水症状をひきおこし、ひどい場合には死に至ることもあります。飲料水として1人あたり最低1リットル/日の水が必要です。調理等に使用する水を含めて「1人あたり3リットル/日」は備蓄しておきましょう。



③ 栄養バランスが乱れて体調不良になるかも?

長期保存できる食品、簡単に調理できる食品で栄養バランスのよい食事を考えてみましょう。主食+主菜(+副菜や間食など)を揃えるように意識するとよいでしょう。

- (例) 主食・・・パックご飯、乾パン、乾めん
- 主菜・・・魚・肉・卵・大豆製品の缶詰やレトルト食品
- 副菜・・・野菜の缶詰やレトルト食品、日持ちのする野菜(根菜や乾燥野菜)、いも類
- 間食・・・果物の缶詰、菓子類
- その他・・・野菜ジュース(不足しがちな食物繊維やビタミン、ミネラルが手軽に摂取でき、水分補給にも優れています。)

